

## Abstract

# 新生児頭蓋内出血に対する今日の診療, および血友病保因者妊婦の産科的医療・出産方法の現状: 全米血友病財団・医療科学諮問協議会 (National Hemophilia Foundation's Medical and Scientific Advisory Council) による米国の産科医, 新生児科医, および血液学専門医を対象にしたアンケート調査

Current practices regarding newborn intracranial haemorrhage and obstetrical care and mode of delivery of pregnant haemophilia carriers: a survey of obstetricians, neonatologists and haematologists in the United States, on behalf of the National Hemophilia Foundation's Medical and Scientific Advisory Council

R. Kulkarni, J. M. Lusher, R. C. Henry and D. J. Kallen

今回我々は、血友病保因者妊婦および頭蓋内出血 [intracranial haemorrhage (ICH)] を有する血友病新生児が受けている診療の現状を明らかにするために、産科医, 新生児科医, および血液学専門医を対象にアンケート調査を実施した。本調査のもう1つの目的は、医療機関がこれらの患者を管理するために文書化されたガイドラインを作成したか否かを明らかにすることである。産科医 1,000 人へのアンケートに加え、血友病治療センター [Haemophilia Treatment Centres (HTC)] を通じて各医療機関を代表して HTC 会員となっている小児血液学専門医 180 人と新生児科医 180 人へアンケート用紙を配布し回答を依頼した。

回答率は産科医で 23%, 新生児科医 22%, 小児科血液学専門医 16% であった。回答者の 94% が、血友病保因者妊婦と彼女らの新生児の管理および新生児に対する神経学的検査のための文書化されたガイドラインはないと回答した。血友病保因者である妊婦の分娩法については、産科医の 57% は経膈分娩

が好ましいとした一方で、11% は帝王切開が通常好ましいと回答している。周産期医療がどの程度利用できるかによって、出生前管理が影響を受けていた ( $p < 0.05$ )。ICH と診断された正期産新生児に対し血友病の有無を検査すると答えた新生児科医は 23% にとどまり、早期産児に対してはさらに低下し 3% であった。血友病をもつ全新生児については、(新生児科医の) 40% が出産時外傷を相殺するために出産直後から濃縮凝固因子 (CFC) を定期的に投与した方が良いと考えており、また小児科血液学専門医の 89% も CFC を用いた早期予防を支持している。

これらの統計をみる限り、血友病保因者妊婦と血友病新生児を管理するためのガイドラインは必要であるといえる。早期産児はもとより、正期産児においても ICH は血友病を示唆する兆候であり得ることを医師はもっと認識する必要がある。また、そうすることにより、出血に際し早期に適切な治療を施すことが可能になるのであろう。